

第 6 号発行に寄せて

第 6 号は、令和 4 年 4 月に第 6 期生として入学した 8 名の実践報告書をまとめたものです。8 名の皆さんは、ミドル・リーダー養成コース 2 名、教育実践高度化コース 5 名、特別支援高度化コース 1 名に所属し、学んできました。今年度も、これまでと同じように小学校 5 名、中学校 2 名、特別支援学校 1 名と多様な学校種のメンバーが集まり、切磋琢磨しながら研究を進めてきました。特に 1 年目は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、オンライン授業や行動制限もありました。しかし、そのような中でも、自分にできることは何かを考え真摯に学んできたこと、そしてそれを乗り越え研究を推進してきたことは、一人ひとりの大きな力となっていることと思います。

思いを込めて書き上げた実践報告書は、2 年間のまとめでもあります。これから皆さんの目指す方向を示したものであり、迷った時に戻ってくる拠り所でもあります。社会に出た（戻った）後も、時には読み返し、自分の根幹にある思いに触れてみてください。きっと 2 年間の努力が皆さんを支え、奮い立たせてくれることと思います。

2 年間を振り返ると学内での日々の授業、連携協力校ごとの週間カンファレンス、月に一回開催される月間合同カンファレンスはもちろん、多様な方と関わり合うラウンドテーブルや福島県教育センター・福島県特別支援教育センターとの交流会など多くの機会を得て自分の研究テーマを追究することができました。そして、連携協力校での実習は、かけがえのない実践の場として研究をより深める場となりました。連携協力校で出会った先生方、子どもたちの姿から感じ、学んだことはたくさんあったのではないのでしょうか。そのようなことができたのも、第 6 期生の研究のためにご協力いただいた福島県教育委員会や各市町村教育委員会、各学校、そして先生方のあたたかい支えがあったからこそです。ご協力いただいた関係機関の皆様、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

この実践報告書を手にとられた皆様、第 6 期生の今後の活躍も引き続きご支援いただけますようどうぞよろしく願いいたします。そして、私たち教員も今後さらに努力し、院生とともに歩んでいきたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほど、引き続きどうぞよろしく願いいたします。

2024年3月

教職実践研究科長 宗形潤子